盟和産業株式会社

2027年3月期第2四半期
決算説明会資料

2026年11月26日

MEIWA
Industry Co., Ltd.

目次

Ⅰ　第2四半期決算レビュー

Ⅱ　通期業績見通しおよび
　　重点課題の取組み

Ⅲ　株主還元

Ⅳ　（ご参考）売上高の内訳等

Ⅰ　第2四半期決算レビュー

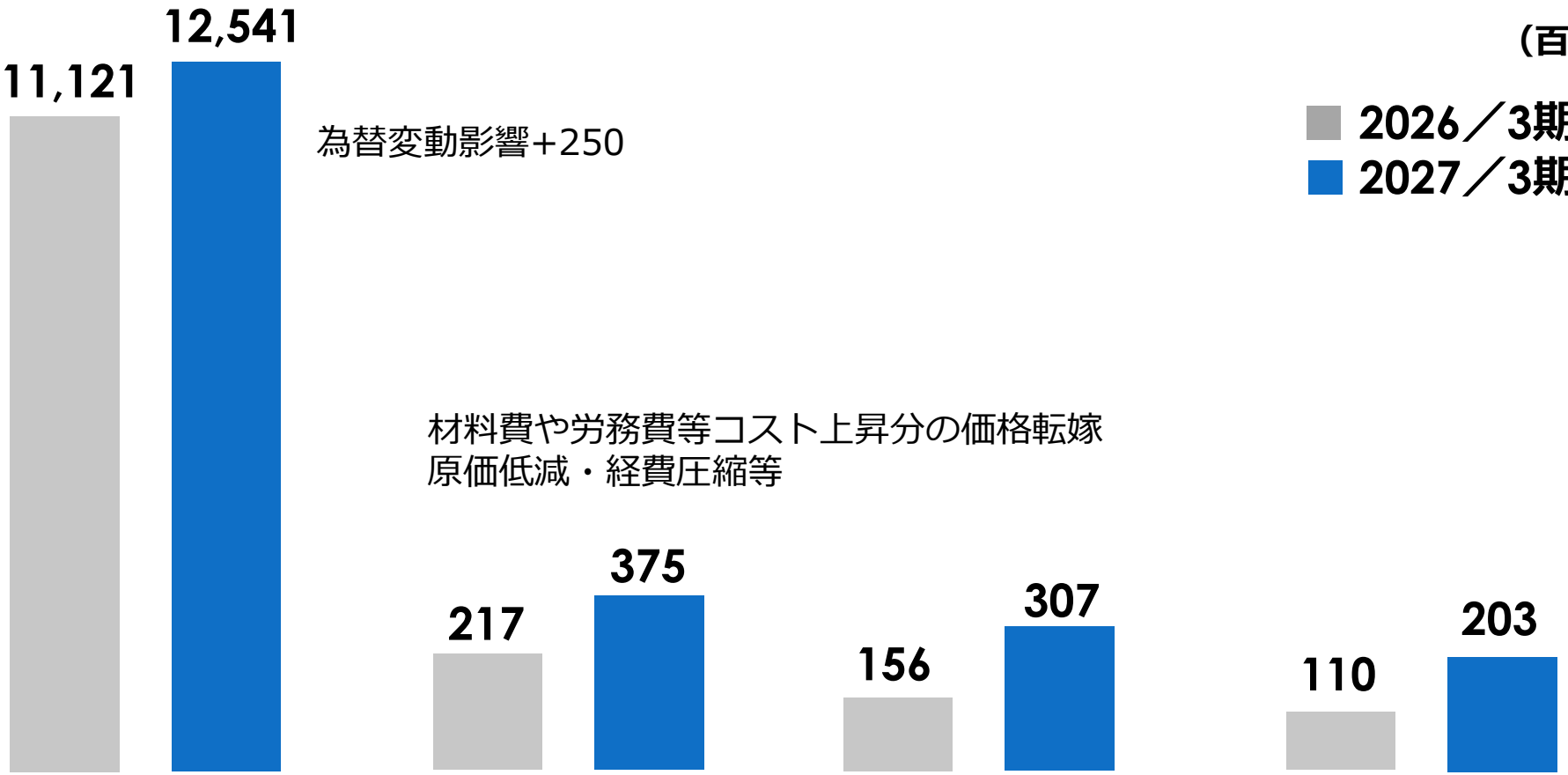
第2四半期決算の主なポイント

- 第2四半期（中間期）連結業績は前年同期対比増収・増益
- 自動車部品、住宅ともにセグメント利益が前年同期を上回る
- 中東情勢の影響等による材料費や労務費等コスト上昇分を価格反映により吸収

連結業績の概要

（百万円）

■ 2026／3期2Q
■ 2027／3期2Q

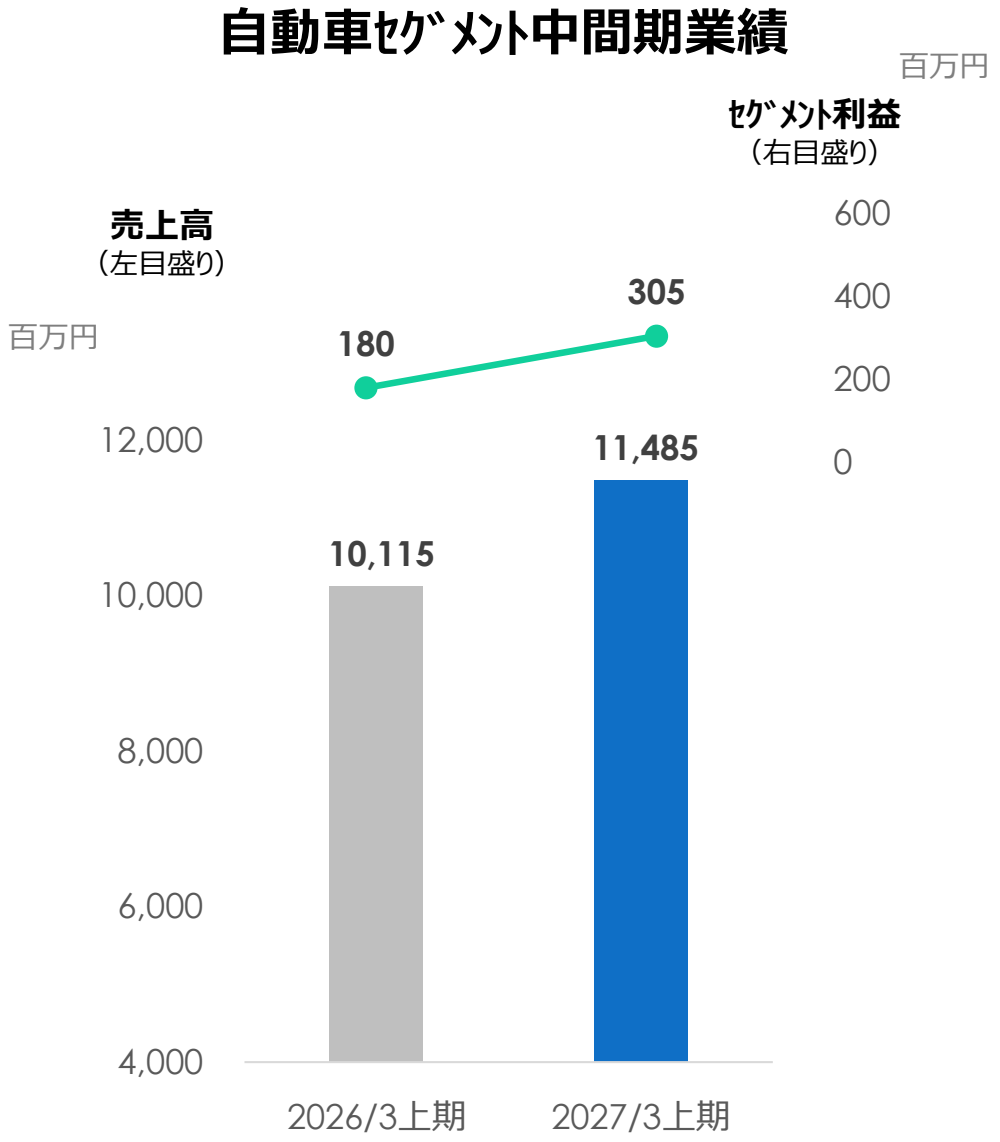


自動車セグメント業績

◆前年同期比増収

前期後半の量産開始車種向け増加
原材料価格上昇分の価格反映

◆セグメント利益増益

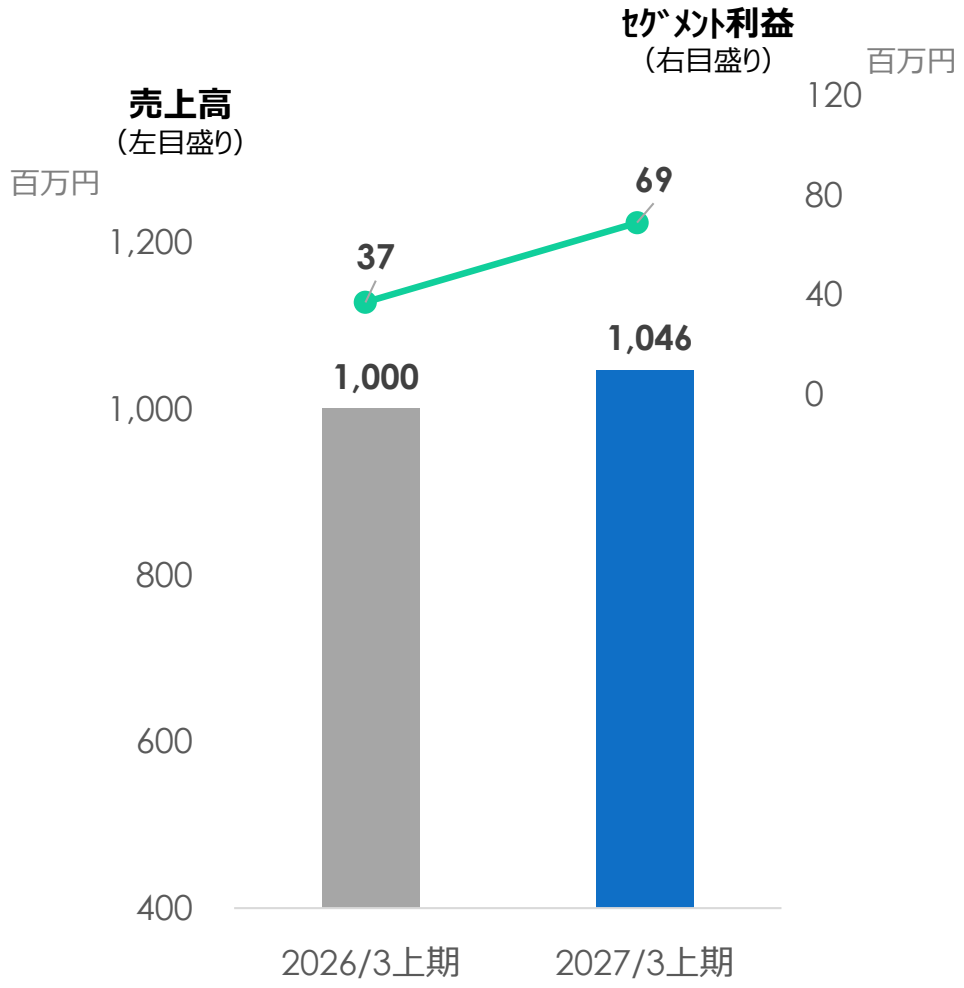


住宅セグメント業績

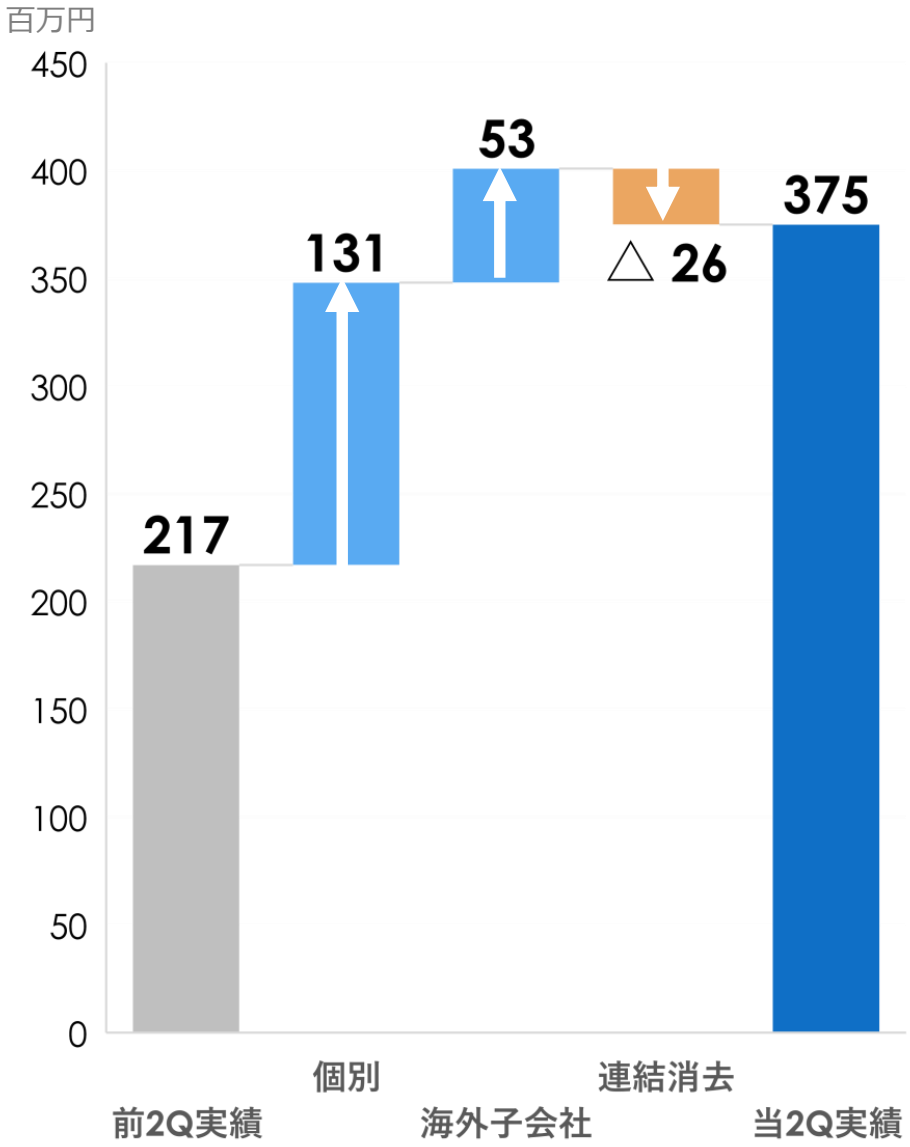
◆前年同期比増収
原材料価格上昇分の
価格反映

◆原価低減・スポット売上

住宅ｾｸﾞﾒﾝﾄ中間期業績



営業利益増減と海外子会社の状況



◆ 米国

- 日系OEMの販売堅調
- 原価低減による収益効果

◆ 中国

- 現地メーカー向け受注活動
- 当社グループ内の材料調達

◆ タイ

- 受注車種の売れ行き堅調

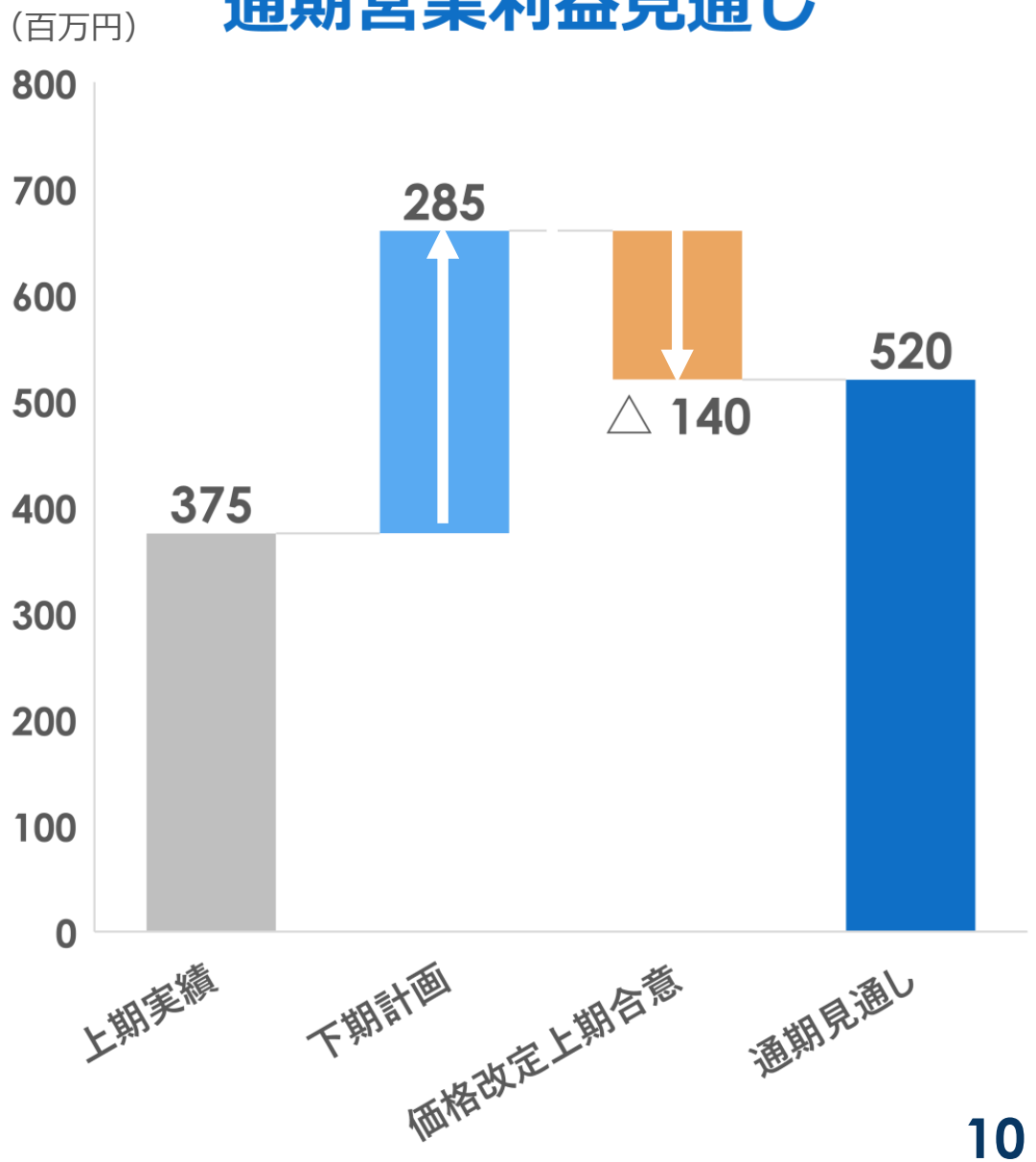
Ⅱ　通期業績見通しおよび重点課題の取組み

通期業績見通し

5月14日公表の
通期業績予想値の修正無し

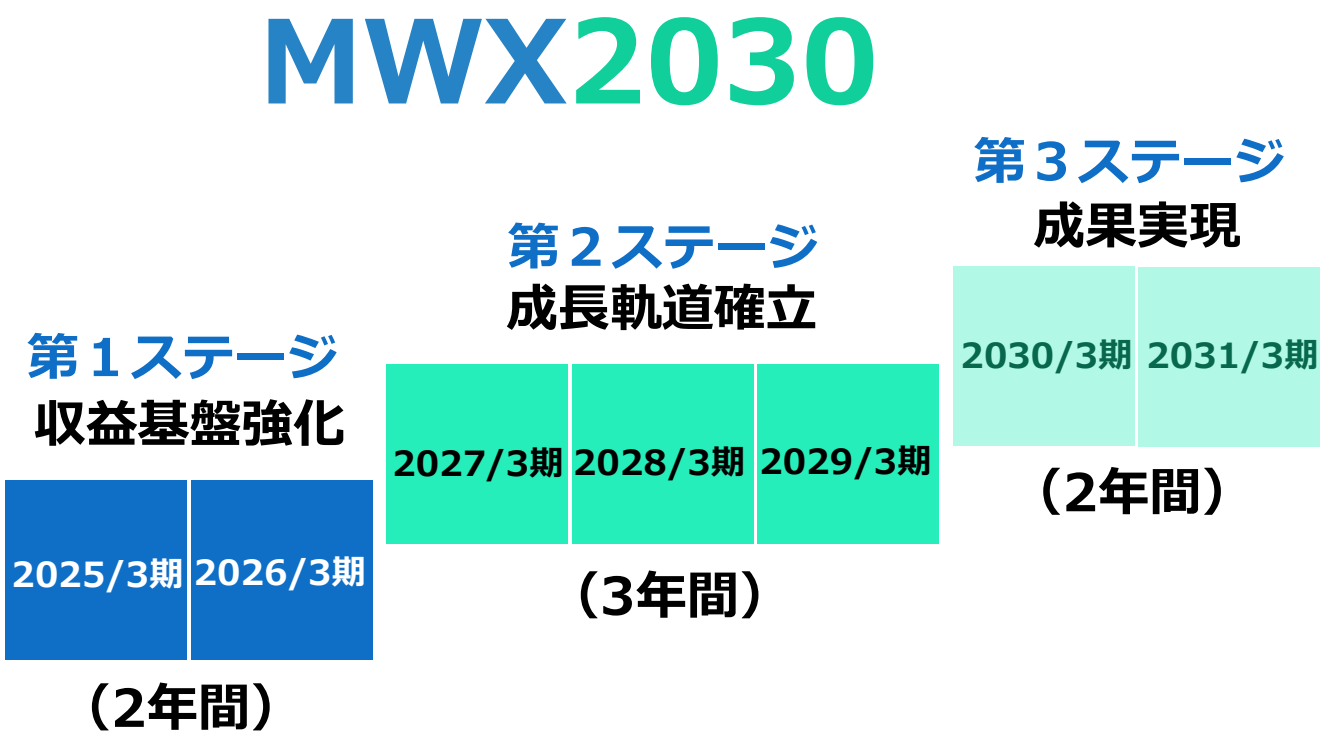
	金額（百万円）
売上高	24,300
営業利益	520
経常利益	430
親会社株主に帰属する当期純利益	320

通期営業利益見通し



中期経営計画MWX2030

- 期間　2025年3月期～2031年3月期（7年間）
- 数値目標　売上高270億円/当期純利益9億円/ROE8%以上
- ３段階のステージ



中期経営計画MWX2030の重点課題

	項　目	取組内容（例）	
収益力強化	取引採算の改善	販売価格の適正化、低採算取引見直し	
	一貫生産体制強化	購入部品の内製化等	
	製造・管理の効率化	省人化・省エネルギー設備導入、DX活用	3
	原価改善	ｸﾞﾙｰﾌﾟ全体での買い方、作り方、運び方改善	
成長戦略	新分野開拓	保有技術を活かした関連分野の開拓	
	循環型の物造り	CE（サキュラーエコノミー）への対応	2
	既存分野拡販	新製品受注、取引シェア拡大、非日系顧客開拓	1
ＥＳＧ経営	カーボン・ニュートラル推進	2030年までにCO2排出量2013年度比半減	4
	人的資本の拡充	層別人員体制確保、海外拠点技術者の現地化	
	資本コストや株価を意識した経営	株主価値の向上、ROE・PBR等指標改善	

1 高剛性ボードのラインナップ拡充

◆ 主なデッキボード（自動車荷室部品）

シコーシート	ゼムライト	マジカル ゼムライト	新 高剛性 ボード
PPシートから中空構造体を形成	PPシートの間にビーズ発泡体を積層	PP-GFシートの間にビーズ発泡体を積層	段ボール紙とGFシートを積層しPU塗布

➢ 北米・中国市場における受注拡大を図る

2 ガラス繊維入り製品端材リサイクル

- 廃棄していたガラス繊維入り製品端材のリサイクル技術を開発
- 廃棄物を資源に転換してカーボン・ニュートラルへ貢献

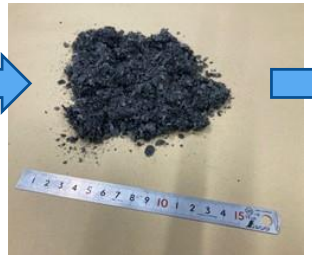
リサイクル技術開発



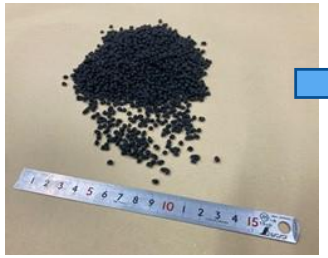
プレス成形の端材



破砕減容



微粉砕化



ペレット化
（MZﾍﾟﾚｯﾄ）

押出シーティング
（適量添加）
↓
ブロー成形

廃棄処分

ラゲッジフロアボードに活用可能



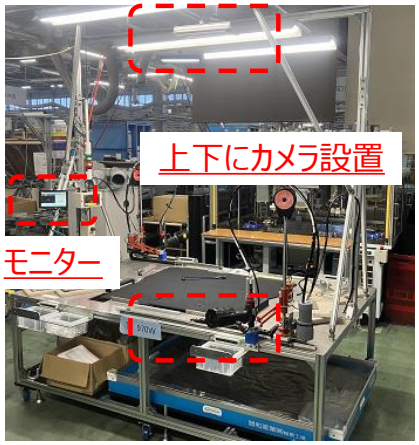
3 画像検査導入例

➢ラゲージボード 生産設備の画像検査化

目標：完成品の画像検査

・検査の属人化低減による検査精度向上

・トレーサビリティの強化





モニター画像
文字（刻印）を識別

＜従来＞
見逃し易い検査項目を人で検査

検査員 ------→ 製品検査（7項目）

＜導入後＞
見逃し易い検査項目を画像で検査

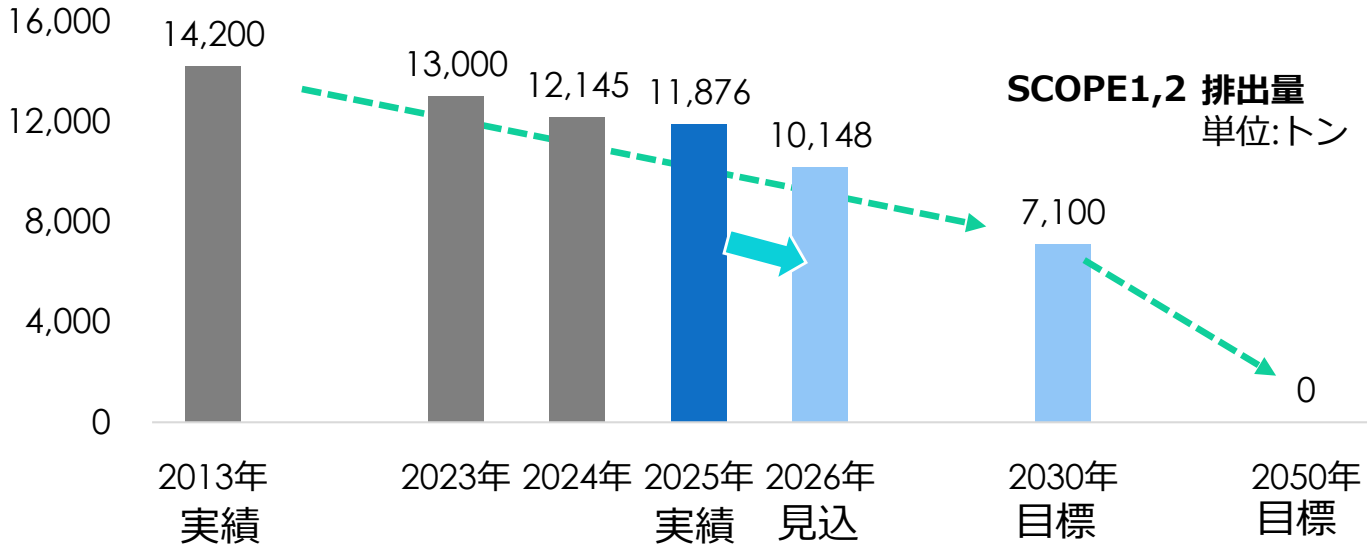
画像検査 ------→ 製品検査（7項目）

見逃し易い項目を画像にて判別

画像検査項目
・刻印内容・ASSY部品有無・ASSY部品向き

4 カーボン・ニュートラル推進

◆目標　2050年カーボンニュートラル達成
2030年度までにCO2排出量2013年度比半減



➢ **2026年度排出量**
見込 10,148 t

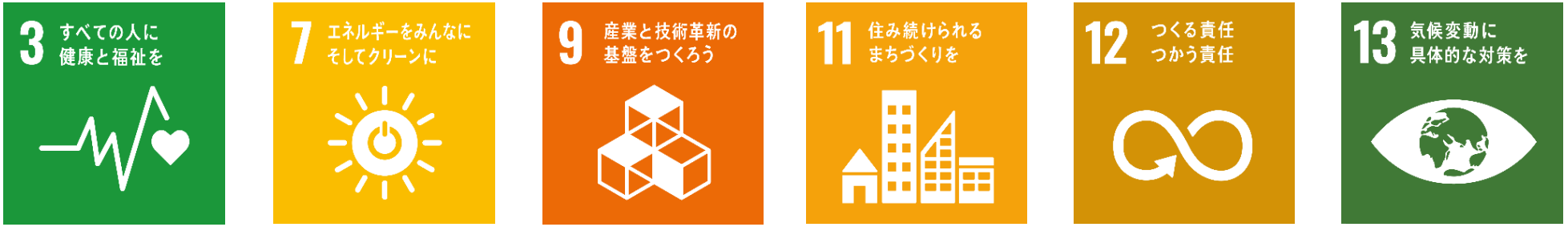
2013年度対比
28%削減

◆取組　CO2フリー電力へ順次切替（2026年度 30%切替）
高効率機器への設備更新
省エネルギー活動（電力使用効率化・平準化等）

新技術開発　開発テーマ（例）

NO	分野	開発テーマ		期待する効果	SDGsとの関連
1	自動車 内装部品	顧客とのCE・CN対応製品 共同開発	CN/CE	資源循環	１２、１３
2		ガラス繊維強化 PPハニカム構造体	CN	資源循環	１２、１３
3		デッキボードの競争力強化	CN	コスト競争力	１２、１３
4		ガラス繊維入り製品端材リサイクル	2	資源循環	１２、１３
5	新分野開拓	廃棄物を用いた資源の有効活用	CN/CE	資源循環	１２、１３
6		現有設備を用いた新用途開発	CN	収益拡大	１２、１３
7	生産工法	ラゲージボード生産設備の画像検査化	3	技術革新	９、１２
8		AI自動検査機による工程省人化	CN	省人化	９、１２

■ **研究開発費**　（技術者の人件費等を含む）　2026年3月期 4.8億円



Ⅲ　株主還元

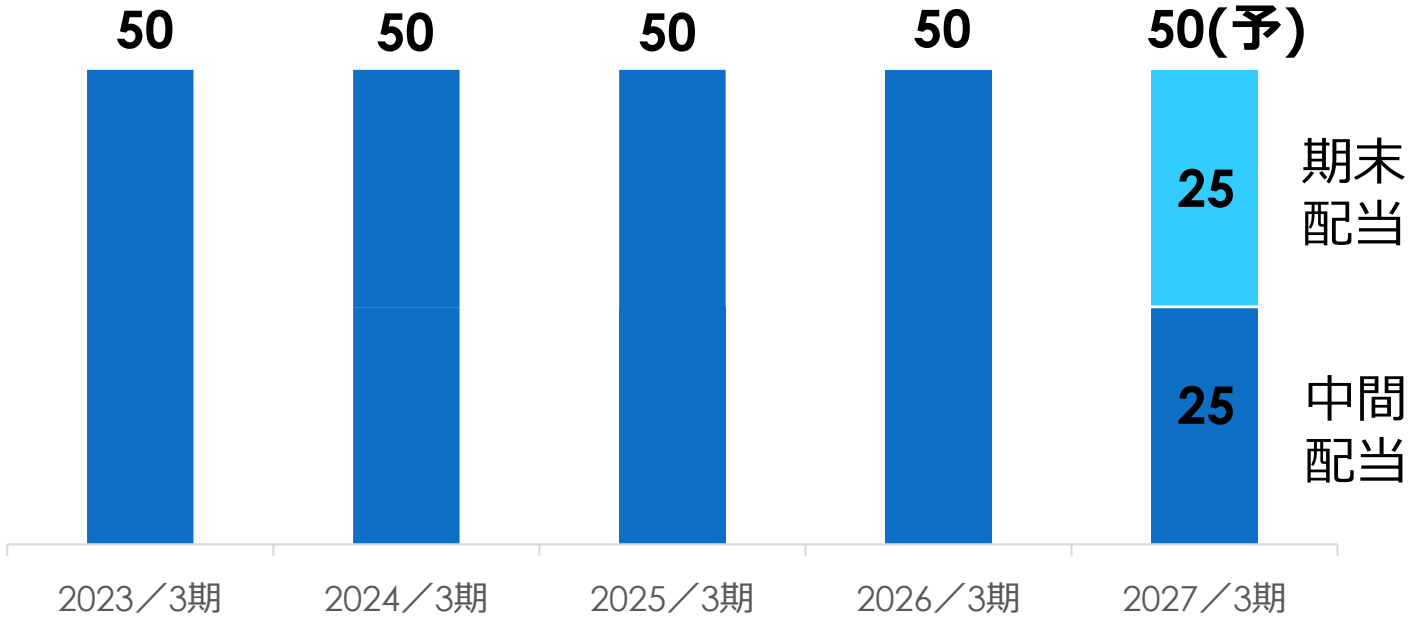
株主還元

利益配分に関する基本方針

企業基盤強化のために必要な内部留保を確保しながら、安定的な配当の継続を基本に、業績および配当性向等を総合的に勘案して配当を決定

一株当たり配当金の推移

（単位：円）

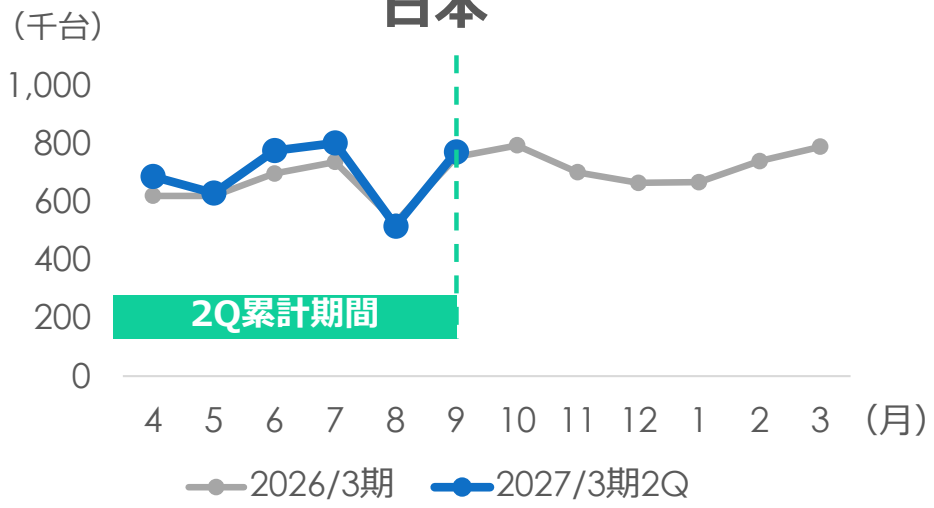


- **2027年3月期は中間配当25円を実施**
- **期末配当25円、年間配当50円を見込む**

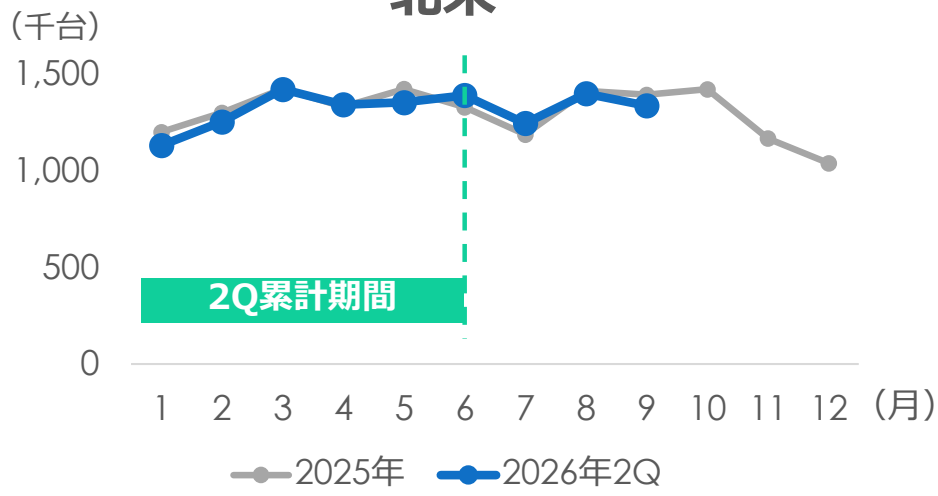
Ⅳ（ご参考）売上高の内訳等

外部情報　自動車生産台数推移（月別）

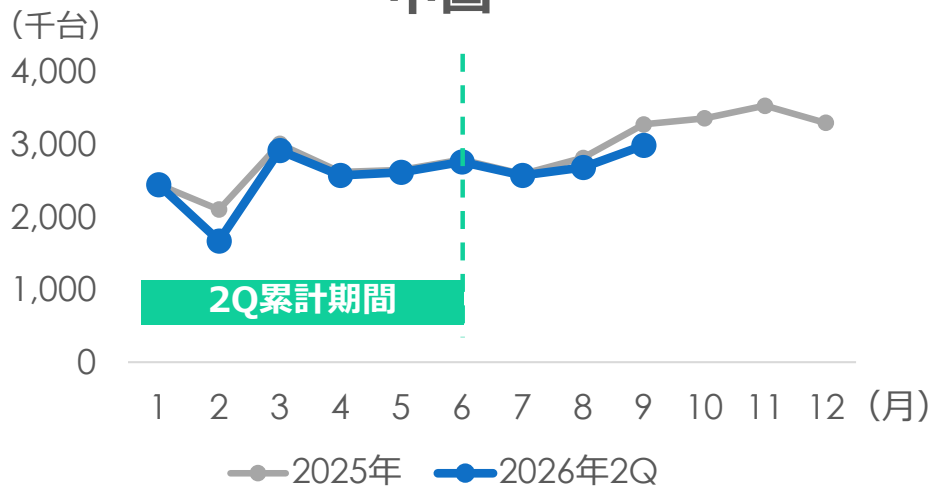
日本



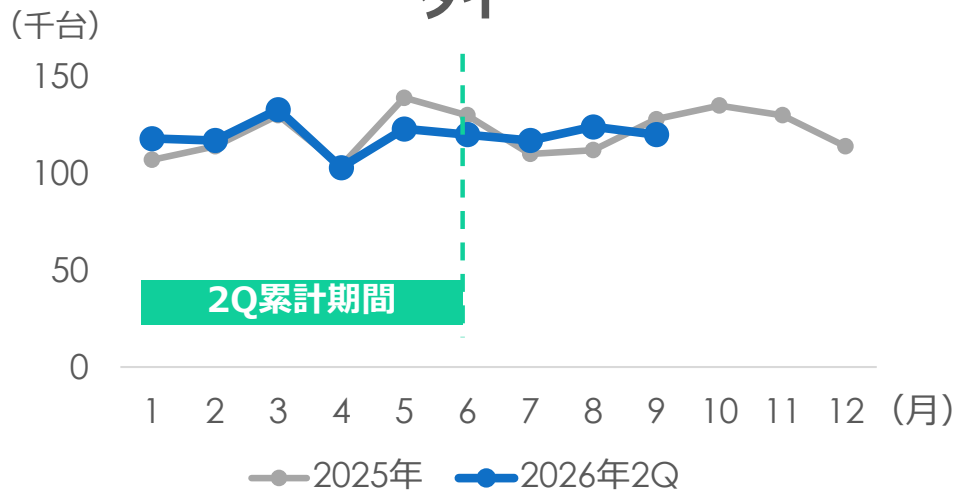
北米



中国

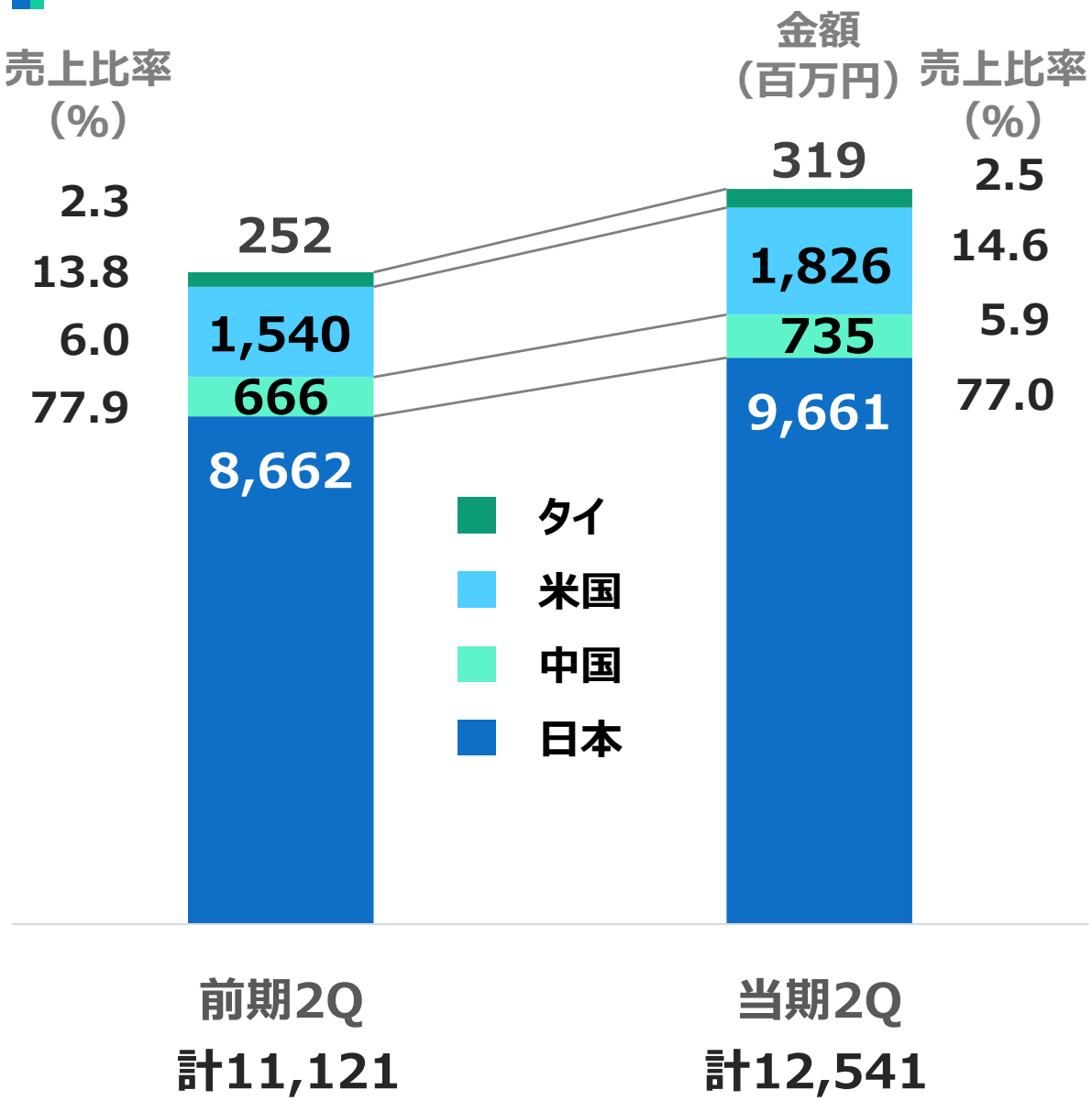


タイ



（出典：ﾏｰｸﾗｲﾝｽﾞのデータを基に当社グラフ化）

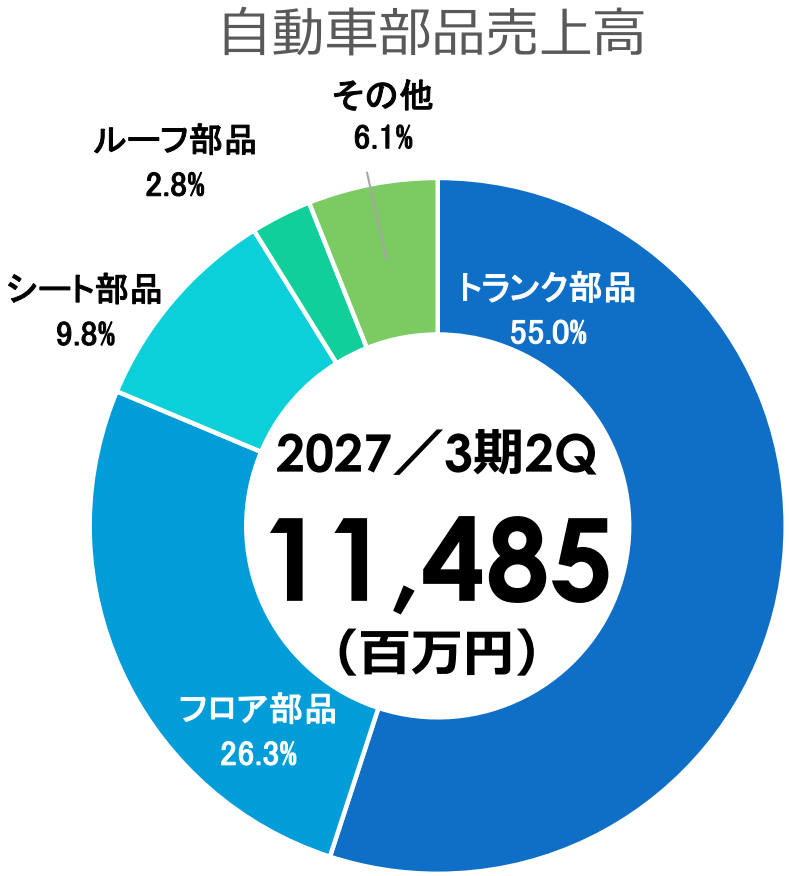
地域別売上高



- 左記は外部顧客に対する売上高
- 海外売上比率23%

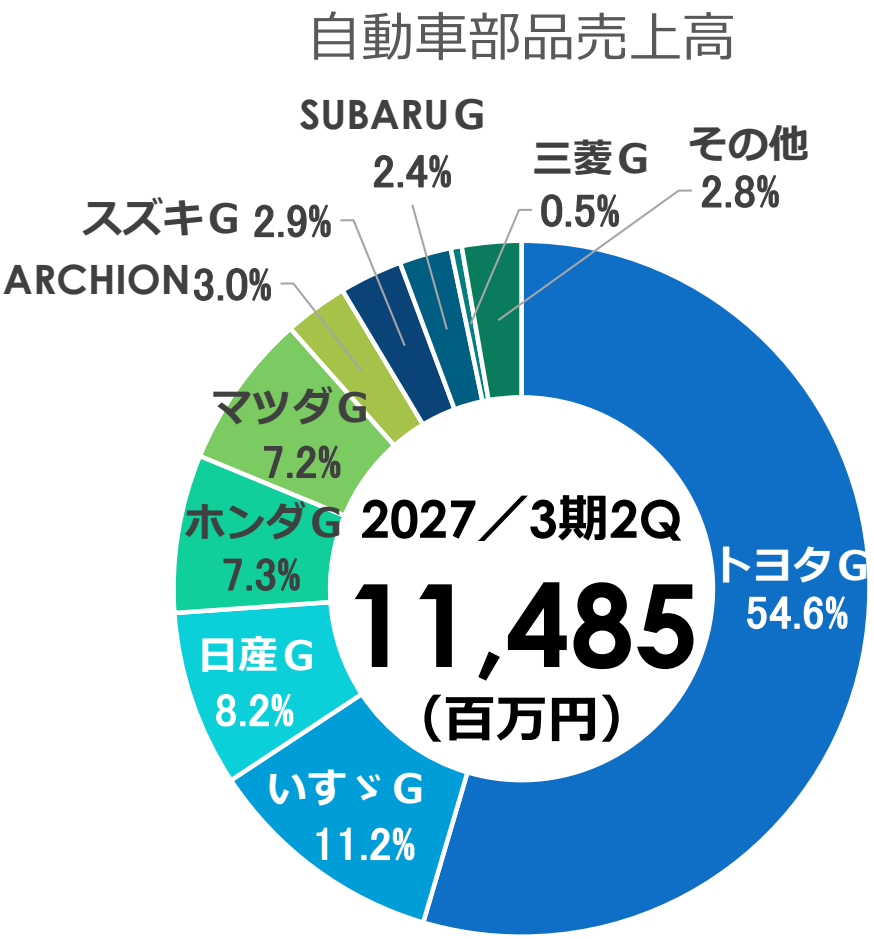
自動車部品の部位別売上高

売上構成はトランク部品が約５割



	金額（百万円）	構成比（%）
トランク部品	6,318	55.0
フロア部品	3,021	26.3
シート部品	1,128	9.8
ルーフ部品	325	2.8
その他	693	6.1

自動車部品のメーカー別売上高

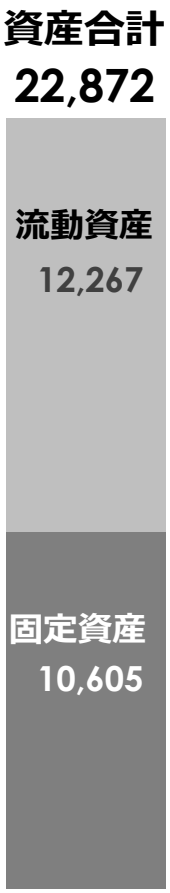


トヨタグループ向けが約５割
（ダイハツを含む）

	金額（百万円）	構成比（%）
トヨタG	6,265	54.6
いすゞG	1,282	11.2
日産G	938	8.2
ホンダG	843	7.3
マツダG	828	7.2
ARCHION	339	3.0
スズキ G	335	2.9
SUBARU G	277	2.4
三菱G	58	0.5
その他	316	2.8

バランスシートの概要

（百万円）





流動資産　△ 273

現金及び預金　△ 181
電子記録債権　△ 282
商品及び製品　＋229

固定資産　＋ 98

投資有価証券　＋174





流動負債　△ 415

買掛金　＋187
電子記録債務　＋124
短期借入金　△ 821

固定負債　△359

長期借入金　△204

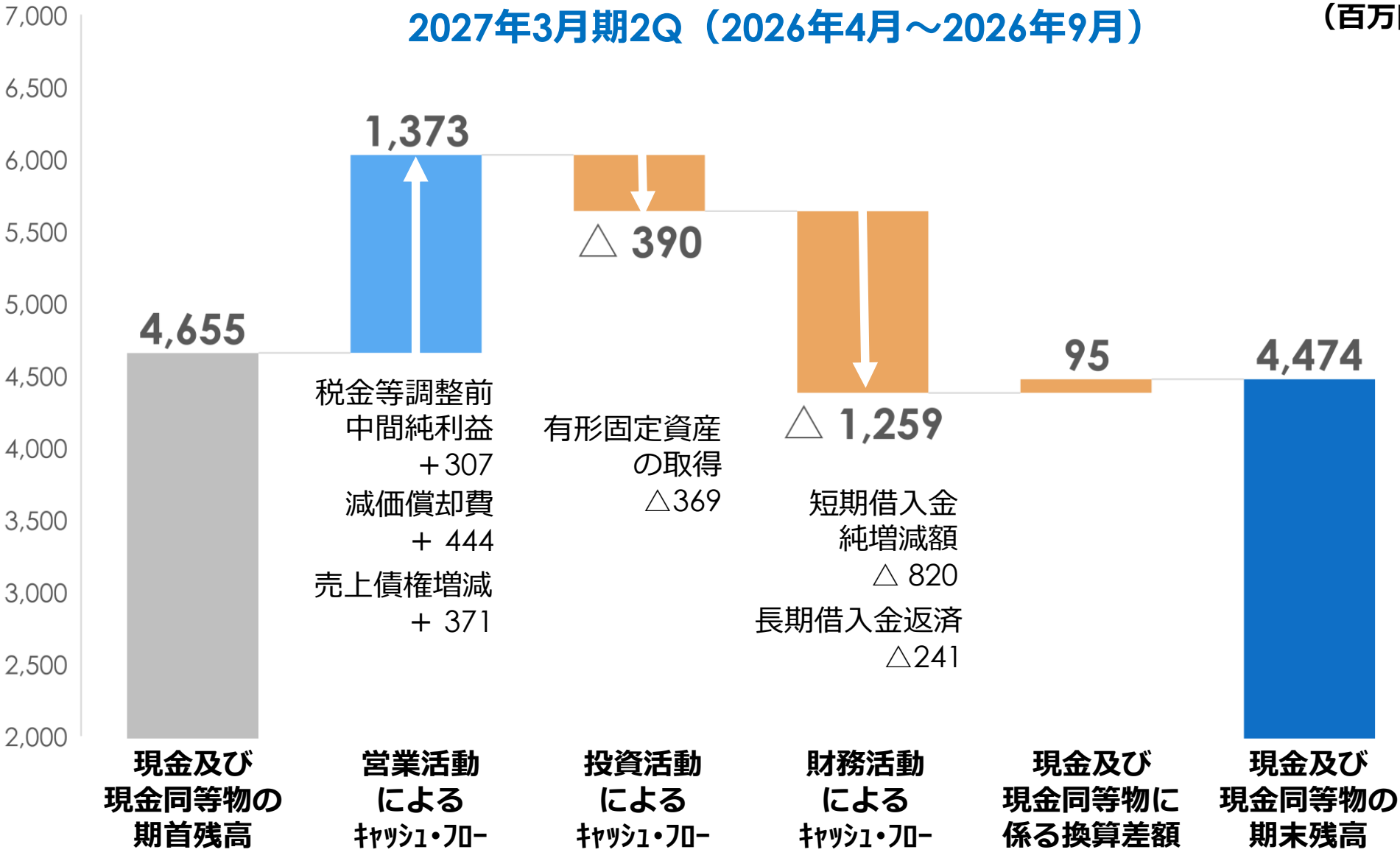
純資産　＋600

株主資本　＋116
その他の
包括利益累計額
＋483

キャッシュ・フロー計算書の概要

2027年3月期2Q（2026年4月～2026年9月）

（百万円）



本資料に記載されている将来に関する見通しは、不確定なリスク要因を含んでおります。したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと大きく異なる可能性がありうることをご了承ください。

盟和産業株式会社